



鶴城社中

潤

參



特別  
A5  
6673  
126  
早稲田大学図書館





安永七戌歳

西尾



祝晨

花の巻也

雪草主人

明きく花は世

ふたまた

鶴且

えー東質素の正風哉あしと

似合し物祝いしや茶の福哉は所

破籠

おはねくもあけ目も公替の何  
とて何となくあつたあつた

とて何となくあつたあつた

右東武

あつたあつたあつたあつた

柳里

注色耀や座しはうねの啼し又

可遊

お、あつたあつたあつたあつた

凡彈

お、あつたあつたあつたあつた

茶葉あやわけくたの初い時

周化

初くちやうり眼くうき不この山

甘珠

何となくあつたあつたあつたあつた

登化



こけりいしのきりしきりしきの松の中	清橋
草花もやちよりの清けはきりきり	梅里
あつたつたつたつたつたつたつたつたつた	雲岬
こけりいしのきりしきりしきの松の中	文羅
破塵うやわやの中しよわわ	茶明 <small>右</small>
こけりいしのきりしきりしきの松の中	草波
こけりいしのきりしきりしきの松の中	翠糸
こけりいしのきりしきりしきの松の中	南枝
こけりいしのきりしきりしきの松の中	帰鳥
こけりいしのきりしきりしきの松の中	浚春
こけりいしのきりしきりしきの松の中	雪貞
こけりいしのきりしきりしきの松の中	有止

掃せよや枝も花も松門はいつ

仙李

ゆきつゆのやまはらけはらけ

はらけはらけはらけはらけはらけはらけ	化然 <small>女</small>
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	山色
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	立雪
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	安女
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	永女
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	風頂
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	片玉
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	玉畦
ゆきつゆのやまはらけはらけはらけ	朝乃

こけりいしのきりしきりしきの松の中



櫻井... 志月女

初... 松信

命... 東枝

... 羽化

... 巴陵

歳旦... 巴陵

恒... 巴陵

... 昔... 志

... 全

丁酉 歳暮 文通

三陽... 日雅... 七

... 在東武

桂... 仙

... 十

... 五周

... 文通

... 文通



長丁川は清く又清川をゆく

以事防

立ちよきよむの山里

五周

ほろりたるよき清川

清能

只れりし清川の中

凡弾

ねむる二百十りとまの月お

周化

時をよむとみよの清

甘珠

いさよふとく不慮と清

登化

鬼王と金持月と清

清橋

海日のまの清く

茶明

神棚へ清く佛と葉子

帰多

何とやと清く清く

芦童

あつと清く清く

風頂

古經奇行一折

守歳

虚らたの自在に清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く  
清く清く清く清く清く

年の清や非と清く清く

五周

是の清く清く



文通

その時

その時

師重光氏

その時

その時

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

京橋伝刀梓



